

複式学級における年間活動計画

① 複式学級における活動計画作成上の留意点

- 複式学級での活動計画を作成するためには、以下のような具体的な観点をふまえます。
- 1 子ども一人ひとりの実態を的確に把握し、個に応じた支援を行う**
- 子ども数の少ない複式学級では、個に応じた指導を具体化しやすいというよさがあります。一人ひとりの好奇心、探求心を十分満たすような子どもの直接体験を大切にし、豊かな感性を養いたいものです。このような体験の積み重ねが、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を培うことにつながります。
- 2 学校の周りや地域の豊かな自然環境を学習に生かす**
- 地域は子どもにとって大切な生活の場であるとともに学習の場でもあります。郊外の小規模校ではより恵まれた自然環境の中で、一人ひとりが自然に直接ふれ、四季の変化を感じやすいなどというよさがあります。この身近な学習素材（人、もの、こと）に繰り返し関わることで、ふるさとを愛する気持ち、地域の一員としての一体感を育てることにつながります。
- 3 保護者や地域の方に理解を求め、連帯した学習活動を進める**
- 人とのつながりが希薄化している現代であっても、小規模校においては一般的に地域をあげて学校教育を盛り上げていこうとする意識が強く、地域の協力が得やすいというよさがあります。この恵まれた条件を生かし、家庭や地域の協力を得ながら、地域にはたらきかけ、地域から学ぶ授業の推進をはかっていくことが大切です。
- 4 ICTを活用し、他校などとの交流に取り組む**
- ICTをうまく活用することで、少人数や地理的な隔たりといった課題が克服できるようになってきました。生活科でも、子どもの発達段階や地域の実態に応じて、同環境や異環境の学校との交流をはかり、刺激し合うなど新しい学習活動を取り入れていくことが必要です。
- 5 学校外の多様な人々とも交流をはかり、自分の思いや願いを豊かに表現できる力を育てる**
- 少人数の複式学級では、限られた人間関係のなかで容易に互いをわかり合えることが、かえってコミュニケーション不足を生むという課題が指摘されています。豊かな表現力の育成は、社会での自立を目指す子どもにとってなくてはならないものです。生活科では、多様な人々との交流やさまざまな表現活動を通して、自己表現力とともに、違いを認め、互いに尊重し合う気持ちを育てます。身近な幼児、高齢者、障がいのある方、外国の方など、多様な人々とのつながりを大切にしている生活科の趣旨を保護者や地域の方にも理解していただくことが必要です。

② 複式学級における生活科 年間活動計画作成の方法

- 複式学級とは、2学年以上の子どもで編成された学級集団ですが、この複式学級における教科指導は大別すると2つの方法があります。
- 1 学年別に指導する方法**
- 学年別指導でも、同じ単位時間に学年別に異なる教科を並行して指導するものと、同じ単位時間に上下学年に対して同じ教科のそれぞれの学年の指導目標・内容に即して並行して指導する方法があります。
- 2 2学年を同単元で指導する方法**
- 上下学年に対して、同じ教科の同じ領域・分野の教材を並行して取り上げ、それぞれの学年の目標を達成する方法と、上下2学年の指導内容をA・B年度に分け、順次性や系統性を考慮して単元を配列し、両学年に同内容・同程度の指導を行うものがあります。複式学級における生活科の指導にあたっては、どのような方法が最もよいか一概にはいえません。ただし、低学年の子どもの発達の段階に配慮することや学校や地域の実態に適した直接的な活動や体験を必要とすることなどの生活科の特色からみて、本書（研究編）p.14～17では、A・B年度方式での年間活動計画例を示すこととします。
- ③ 複式学級における「A・B年度方式」(同単元・同内容活動)の特徴**
- 学習指導要領に示されている生活科の9項目の学習内容を、A年度とB年度の2年間に配分し、どちらの年度においても両学年同時に同じ内容を学習しようとする活動計画です。この方式では、次のようなことが期待されます。
- 教材の系統性や子どもの学習経験の差を考慮し、1・2両学年にわたる共通の単元を構成する課程で、指導内容が基本的なものに絞られたり、資料の準備が能率的になるなど、効果的な指導が期待できること。
 - 共通の学習場面が多くなることにより、経験領域の拡大と集団思考による思考の多様化や深化がはかれるなど、指導の広がりや表現力の向上が期待できる。
 - 共通の指導場面が多くなり、子ども一人ひとりをじっくり見つめて指導する時間的余裕が生まれ、個々の子どもの能力や特性などに配慮した指導がよりいっそう行われやすくなるなど、個に応じた指導の充実が期待できる。
 - 共通の思考場面を設定することにより、協力的な学習が可能になり、また、子どもの人間関係が調整できるなど、社会性の育成が期待できる。
 - 共通のねらいによる活動や体験が可能になるなど、教材・教具の準備や学習の展開の効率化が期待できる。
 - 年間活動計画の作成作業が一元的になり、準備などもまとまった観点から行うことができる。

※なお、この方式では以下の点には留意を要します。――発達段階を考慮すると、本来は2年次に学習した方がよいであろう内容を年度により1年次に学習することになります。そのような単元では、1年生のそれまでの学習経験や発達の段階を十分に考慮して活動計画を作成しなければなりません。

複式学級

生活科

年間活動計画案〔1・2年〕

A 年度

合計 105 時間（93+ゆとり 12）

は、A・B両年度ではほぼ同様の内容を学習するが、各学年の発達の段階に配慮して指導する。
なお、栽培活動は、各年度で素材を変えるなどの工夫をするとよい。

栽培活動 (わたしのはなを そだてよう) 〔12時間※〕 ＋ 常時活動	・花や野菜の苗を植え、継続して世話をしたり、観察したりする。（4月下旬～7月下旬） ・花や種、野菜を収穫し、収穫した喜びをさまざまな方法で表現したりまとめたりする。（7月～10月） ・夏から秋にかけて、秋まきの野菜や春咲きの花を植える。（9月～12月）	・2年生は前年度の栽培経験を生かすようにする。 ・2年間の活動に広がりや深まりができるように、見通しをもつてのぞむようにしたい。 ・地域の方に栽培方法を教えてもらうのもよい。
--	--	---

※栽培活動は年間を通して適切な時期に振り分けて活動する。

月	単 元 名 (授業時数)	主な学習活動	留意事項
		春休み	
4 月 〔9 時間〕		※栽培活動（わたしのはなをそだてよう）〔7 時間〕 ・1年生を迎える会をする。 ・自己紹介ゲームをしたり、校庭で遊んだりする。 ・校庭を探検しながら新しいことを発見したり、友達や生き物と楽しく遊ぶ。 ・学校で飼育している生き物にふれたり、一緒に遊んだりする。 ・校内を探検して、発見したことや気付いたことを知らせる。 ・交通安全に気をつけながら、学校の周りをみんなで散歩する。	・A・B年度とも同じ活動内容とする。 ・1年生が学校生活へスムーズに馴染むことができるように、2年生がサポートする。 ・学校の周りを歩く活動の際には、学校を中心とした町や村マップをつくるようにし、次年度に引き継ぐ。
5 月 〔9 時間〕	がっこうだいすき いちねんせい いくぞ！がっこう たんけんたい わくわく だきだき 2年生 〔18時間〕		
6 月 〔12時間〕	なつと なかよし 〔8時間〕		
7 月 〔6 時間〕		・夏の校庭探検などを通して、植物の変化のようすに気付いたり、春とは違った生き物にふれたり、一緒に遊んだりする。 ・水鉄砲やシャボン玉などの夏に適した遊びや土や砂を使った遊びを考え、友達と楽しく遊ぶ。 ・夏休みの計画について話し合い、自分なりに夏休みの計画を立てる。	・季節の変化を感じとらせながら、ダイナミックな遊びができるように工夫する。 ・当日の天候などに十分注意をはらう。 ・夏休みにおける、家族の一員としての過ごし方を考えさせる。
		ゆとり 〔3 時間〕	
8 月		夏休み	

	ゆとり 〔3 時間〕		
9 月 〔12時間〕	生きもの 大すき 〔7 時間〕 ＋ 常時活動	※栽培活動〔5 時間〕	・身近な生き物にふれたり、世話をしたりする。 ・飼育活動を通して、気付いたこと、感じたことをさまざまな方法で表現する。 ・動物に対するアレルギーや安全には注意をほらう。 ・教師が飼育に関する基礎的な知識を身に付けておく。
10月 〔12時間〕	あきと なかよし 〔15時間〕		・五感をフルに活用して、秋が体験できるように活動を設定したい。 ・2年生が1年生を教えたり、共同して作ったりするようにしたい。 ・他教科との関連をはかり、製作時間があまり多くならないように気をつけたい。 ・秋フェスタではイベント的にあつわらないように気をつけ、指導時数が増え過ぎないように計画立案する。 ・遊ぶ場、見せ合う場、掲示・展示する場などを教師が支援して設定したい。
11月 〔12時間〕			・家族と一緒にしたことや手伝いなどについて思い出し、そのときのようすを自分なりの表現方法でまとめる。 ・それぞれの家庭で自分にできる仕事を探して、継続的に行い、実践内容を記録する。 ・家族のために役立つことを出し合い、家族に喜んでもらえることを実践する。
12月 〔6 時間〕	自分で チャレンジ 大さくせん 〔10時間〕		・本単元に入る前に、あらかじめ懇談会や学級通信などを通して、本単元の主旨を保護者に伝え、協力を依頼する。 ・家庭環境の差やプライバシーには十分留意する必要がある。 ・放課後などの活動や家庭生活に深くかかわるので、家庭や近所でかわりの深い人の理解と協力が必要。 ・違いが認められるよう支援を心がけたい。
	ゆとり 〔2 時間〕		
	冬休み		
	ゆとり 〔2 時間〕		
1 月 〔9 時間〕	ふゆと なかよし 〔10時間〕	・校庭や公園などで冬の自然と関わり、みんなと一緒に冬の遊びを楽しんだり、冬の自然を見付けたりする。 ・地域の高齢者などを招いて、自分たちの知らない遊びや遊び方のこつを教えてもらい、楽しく遊ぶ。 ・練習してじょうずになった昔遊びを発表したり、地域の人に見てもらったりする。	・昔遊びのこつを高齢者から教わるなど、入学以来培ってきた人と関わる力をここで存分に発揮できるようにしたい。 ・冬の遊びを通して、季節の変化を感じとらせたい。
2 月 〔12時間〕	もう すぐ 2年生 これまでの わたし これからの わたし 〔13時間〕	・自分が小さかったころのことを調べたり、幼稚園や保育所へ行って追体験したりして、自分の成長を確かめる。 ・自分ができるようになったことや自慢できることを紹介し合う。 ・集めた資料を好きな方法でまとめ、自分らしい成長の記録を作る。 ・1年間書きためてきた絵やカードを見ながら、思い出を振り返る。 ・新1年生を迎える準備をする。 ・校庭や学校の周りなどに訪れた春を探す。	・1年間の成長を振り返り、互いの成長を喜び合いたい。 ・1年生には、幼稚園や保育所の子どもたちの前で発表する機会を設け、自分の成長を確認させたい。 ・2年生は、3年生の学習を参観したり、交流したりする活動を取り入れるとよい。 ・成長を振り返るとき、家庭環境や身体的特徴への配慮をする必要がある。 ・地域に出て春のきざしを感じ取らせたい。
3 月 〔6 時間〕	ゆとり 〔2 時間〕		
	春休み		

複式学級

生活科

年間活動計画案〔1・2年〕

B 年度

合計 105 時間（89+ゆとり 15）

は、A・B両年度ではほぼ同様の内容を学習するが、各学年の発達の段階に配慮して指導する。
なお、栽培活動は、各年度で素材を変えるなどの工夫をするとよい。

栽培活動 （大きくそだて わたしの野さい） 〔12時間※〕 ＋ 常時活動	・花や野菜の苗を植え、継続して世話をしたり、観察したりする。（4月下旬～7月下旬） ・花や種、野菜を収穫し、収穫した喜びをさまざまな方法で表現したりまとめたりする。（7月～10月） ・夏から秋にかけて、秋まきの野菜や春咲きの花を植える。（9月～12月）	・2年生は前年度の栽培経験を生かすようにする。 ・2年間の活動に広がりや深まりができるように、見通しをもつてのぞむようにしたい。 ・地域の方に栽培方法を教えてもらうのもよい。
---	--	---

※栽培活動は年間を通して適切な時期に振り分けて活動する。

月	単 元 名 （授業時数）	主な学習活動	留意事項
4 月 〔9 時間〕	春休み		
	わくわく ときどき 2年生 がっこう だいすき いちねんせい いくぞ！がっこう たんけんたい 〔12時間〕	※栽培活動（大きくそだてわたしの野さい）〔8時間〕	・1年生を迎える会をする。 ・自己紹介ゲームをしたり、校庭で遊んだりする。 ・校庭を探検しながら新しいことを発見したり、友達や生き物と楽しく遊ぶ。 ・学校で飼育している生き物にふれたり、一緒に遊んだりする。 ・校内を探検して、発見したことや気付いたことを知らせる。 ・交通安全に気をつけながら、学校の周りをみんなで散歩する。
5 月 〔9 時間〕	とび出せ！町の たんけんたい 〔8時間〕		・A・B年度とも同じ活動内容とする。 ・1年生が学校生活へスムーズに馴染むことができるように、2年生がサポートする。 ・学校の周りを歩く活動の際には、学校を中心とした町や村マップをつくるようにし、次年度に引き継ぐ。
6 月 〔12時間〕	生きもの 大すき 大はっ見 〔7時間〕 ＋ 常時活動	・町探検に出かける計画を立て、探検に出かける。 ・もう一度探検する所を決め、探検に出かける。 ・探検カードを整理し、発見したことや調べたことをまとめる。 ・探検でお世話になった人に、絵やカードでお礼の手紙をかく。	・いきなり町に出るのではなく、学校周辺から徐々に学習範囲を地域に広げていくように配慮したい。 ・A年度でつくった学校の周りや町、村マップを活用したい。 ・危険な場所などは事前に調査し、探検のときには保護者の協力も依頼するとよい。 ・表現方法は発達の段階に配慮したい。
7 月 〔6 時間〕	ゆとり 〔1 時間〕		
8 月	夏休み		

	ゆとり [3時間]		
9月 [12時間]	せかいで ひとつ わたしの おもちゃ [12時間]	※栽培活動[4時間]	・身の回りにあるさまざまな材料を利用して、工夫しておもちゃを作る。 ・作ったおもちゃの遊び方を工夫し、みんなで楽しく遊ぶ。 ・「作る→遊ぶ→作り直す→遊ぶ」活動が十分保証できるよう時間の設定に留意したい。 ・子どもたちが互いに交流し、遊び合える十分なスペースを確保する。 ・材料集めのための家庭への連絡を事前にしておく。 ・おもちゃを作るための道具の使い方が適切かどうか注意する。
10月 [12時間]	もっと 知りたい たんけんたい [20時間]		・秋の町を自分なりの目的をもって探検し、町の自然、人々、公共施設などに親しみをもって関わり、調べたり体験したり教えてもらったりする。 ・秋の町探検を振り返ったり、調べたり、体験したりして得た感動や発見の喜びを伝え合う。 ・春の町のようにすと比べながら、秋の町のようすに気付かせる。 ・1学期の学習を生かし、2学期の町探検の見通しをもたせたい。 ・春との違いに気付いたり、新たな発見をしたり、人々との関わりを深めたりできるよう留意したい。 ・安全に十分配慮するため、保護者にも協力を呼びかける。 ・身近な地域から活動範囲を少し広げ、公共交通機関を利用して目的地に出かけるのもよい。 ・多様な表現方法で工夫させたい。 ・他教科との関連をはかりながら授業を行うとよい。
11月 [12時間]			
12月 [6時間]			
	ゆとり [3時間]		
	冬休み		
	ゆとり [3時間]		
1月 [9時間]	町の すてき つたえたい [7時間]		・これまでの記録カードや地図などの作品を整理して、1年間の町探検を振り返る。 ・町で見付けた「町のすてき」を自分なりの方法でまとめる。 ・まとめた「町のすてき」を友達や他学年、地域の方に伝える。
2月 [12時間]	これまでの わたし これからの わたし (もうすぐ2年生) [14時間]		・自分が小さかったころのことを調べたり、幼稚園や保育所へ行って追体験したりして、自分の成長を確かめる。 ・自分ができるようになったことや自慢できることを紹介し合う。 ・集めた資料を好きな方法でまとめ、自分らしい成長の記録を作る。 ・1年間かきためてきた絵やカードを見ながら、思い出を振り返る。 ・新1年生を迎える準備をする。 ・校庭や学校の周りに訪れた春を探す。 ・1年間の成長を振り返り、互いの成長を喜び合いたい。 ・1年生には、幼稚園や保育所の子どもの前で発表する機会を設け、自分の成長を確認させたい。 ・2年生は、3年生が学習を参観したり、交流したりする活動を取り入れるとよい。 ・成長を振り返るとき、家庭環境や身体的特徴への配慮をする必要がある。 ・地域に出て春のきざしを感じ取らせたい。
3月 [6時間]			
	ゆとり [3時間]		
	春休み		